

指導例 2

SNS教育プログラム レッスン3 学習指導案

1 単元名 SNSを利用する上でどのような行動をとるか考える

2 本時のねらい

「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」を作成することをおして、適切にSNSを利用する態度を育てる。

3 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点
導入 (10 分)	<スライド 18、19> ・ 本時の内容を確認する ・ 映像（2 つ）を見る。 ○デジタル TAT00	
	指示 1: 映像が伝えようとしていること、作成された意図は何かについて話し合おう。	
	・ 各グループで話し合われたことを黒板に書くなどして、クラス全体で共有する。	・ ネットトラブルは、背景にネット全般についての理解と対策が必要である。情報リテラシーの見方・考え方の視点で整理ができるように支援する。
展開 2 (30 分)	<スライド 20、21>	
	指示 2: 安心・安全に SNS 等を利用するためのモラルやマナーを話し合おう。 「スマホ利用のルールを話し合ってみよう」	
	<グループワーク> ・ ルールを提示する。（※別紙資料） ・ ルールを考えるのではなく、モラルやマナーを考える時間であることを確認する。	・ ルールと、マナー、モラルとの違いを説明し、マナーやモラルを考える時間であることを確認する。 ルール：集団生活で守らなければならないこと マナー：相手を不快にさせないための行為 モラル：善悪の判断基準として振る舞うべき行動 ・ 「○○しない」といった否定表現ではなく、肯定表現を使い、トラブルや問題を回避するための方法や行動をアイディアとして出すように説明する。（※別紙資料） ・ K J 法の進め方について簡潔に説明する。

指導例 2		
	・K J法を使って、個人で考えたことをグループでまとめる。 - 発表用シートに記入し、クラス内での発表に備える。 ・発表して、グループの内容を共有する。	<指導のポイント> ・ルールではなく、マナーやモラルを基にしたものとする。 ・みんなで力を合わせて取り組むことで効果が上がると思われること。
まとめ (10分)	<スライド 22、23> 指示：各グループで考えたことを発表した後、クラスの「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」をまとめる。 ・グループから出された案をもとにして、クラスで「インターネットやSNSを適正に利用するための行動宣言」を考える。 ・授業の感想を記述する。	・「行動宣言」を考えるにあたってはできる限り生徒の自主性に委ねるようにし、教員が無理に誘導することのないように配慮する。 ・「他律」と「自律」を説明し、SNSの利用においては一人ひとりが自分事として自覚し、自律を促す必要があることを強調する。 他律：他人の命令によって行動する 自律：常に自分の意思で判断しながら適切に行動する ・様々なリスク要因に出会い、被害に遭うこともあれば、上手に対処できることもあること。それには「抑止」ということの気づきが大切であり、その視点を確認する。 ・困った時の相談窓口を紹介する。

4 教材

- ・映像教材「デジタル TATT00」「言葉は弾丸にもなる」（公益社団法人ACジャパン）
- ・ワークシート

5 実践するにあたって

(1) 概要

- ①この授業は、ピア・サポートの応用である。生徒が協働して、予防や問題解決の知恵を出し、ピアサポーターとして、SNS等のトラブル問題に対して、相互の交流と協力を促しながら、「見つける」「気づく」「止める」「フォローする」といった行動に結びつくよう意識付けるものである。

※ピア（peer）は「仲間」、サポート（support）は「支える」という意味があり、同じような共通項と対等性をもつ人同士の支え合いを表す言葉。

指導例 2

- ②インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』は、1時間の授業で作成することは難しいものであるが、授業の中で、その基となる考えや意識を促すことを目標とする。

(2) 基本的なスタンス

- 「ネットを使わなければ危険はなくなる」という考えにならないよう、「禁止」ではなく「どう使うか」という視点で、積極的に、自分たちの課題としてとらえていこうという流れで取り組ませる。
- 生徒が役割をもって活動を進め、意見交流、合意形成など他者と関わることをとおして、生徒一人一人の「心の居場所」となることが大切である。
- 教師は、生徒一人一人の思いや考えを聞き出し、話合いに生かすよう支援する。

(3) 工夫するとよい点

<導入部>

- ・「情報に関する見方・考え方」を働かせるため、「ルール」「マナー」「モラル」の3つの観点のうち、焦点化したいねらいによって、導入で扱う教材と量を調整する。

<展開>

- ・ブレインストーミング、KJ法などの手法を用いて、生徒が主体的に意見交流を進められるようにする。

○ブレインストーミング…集団でアイディアを出し合う手法

○KJ法…テーマに関するアイディアを出し、グループに分けて図解化し、アイディアをまとめる手法。気づかなかった問題やアイディアを発見することができる。
(模造紙、色分けをした付箋紙又はカード、マジックなどを使用する)

【Point】・目的（何を求めるのか）を明確に示す。

- ・ルールを提示する。
- ・制限時間を設定する。

- ・振り返りの時間をしっかりと設定し、生徒が作成したものを認め、実践につなげるよう促すことが大切である。
- ・守らなければならない「規則」ということではなく、ピアサポーターとして実践していくことを確認する。
- ・「ルールをつくって終わり」ではなく、そのルールをどうすれば守ることができるのかという発想で、ルールを守るためのプロセスを取り入れる。
- ・個々の振り返りだけが行われることがないよう、学級、学年、全校集会、便りで保護者に発信する等、定期的な振り返りの場面設定をし、相互の交流や協力を促す。

「SNSを利用する上での適切な行動を考える」ワークシート

年 組 番 氏名

【 ワーク 】

- 「インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』」
～みんなで、安全・安心に気持ち良くSNSを利用するために出来ること～

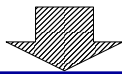
① ネット・SNSの良い点・便利な点

青付箋



② ネットの特性やSNSでのコミュニケーションの特性

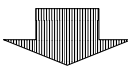
公開性、非匿名性、記録性、信ぴょう性、公共性、流出性、即時性、非対面性
拡散性、テキストコミュニケーション 等



③ ネット・SNSの危険な点・問題点

赤付箋

グループで話し合しましょう



④ 私たちのグループで決めたことは、

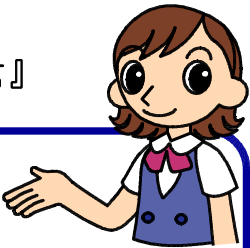
黄付箋

です。

決まったら、発表係は「発表用シート」にまとめて書いてください。

【 まとめ 】

クラスの
インターネットやSNSを適正に利用するための『行動宣言』



< 授業の感想 >

.....

.....

.....

.....

.....

.....

.....